

激走戦隊カーレンジャー (1996～1997)

メディア TV

ジャンル 特撮 ヒーロー

製作国 日本

色彩 Color

1996/03/01 ~ 1997/02/07

TV放映

金曜日

17:30～17:55

テレビ朝日

【解説】

総長ガイナモ率いる宇宙暴走族ボーゾックに、故郷の星を滅ぼされた異星人の少年ダップは、星座伝説の示す戦士・激走戦隊カーレンジャーを地球に見出し、クルマジックパワーを使って、共にボーゾックに立ち向かおうとする。しかしその戦士は、小さな自動車会社で働く、夢だけは大きい普通の若者達にすぎなかった。

ミニ四駆ブームを受けて制作された、自動車をモチーフにした戦隊シリーズ。浦沢義雄氏をメインライターに迎え、大小の自動車型メカ群を、くるまと呼べる身近さに持って来ることで日常と融合させ、ホームコメディとも言える、のどかで親しみやすい作品になっている。また、激走対暴走、ということで、予告で毎回、交通安全標語として説かれる通り、“ルールを守って車を用いることが正義” “ルールを守らず車を操るのは悪” というテーマは、現代的で妥当なものだろう。戦闘開始時の動機付けこそ曖昧だったが、5人の戦士達は、日常に取り残されない範囲でそれなりに成長していき、“守ってくれるお兄さん”ではなく、むしろ子供たちと共に育つ、等身大の存在として描かれた。

凶悪であったはずの敵ボーゾックも、カーレンジャー達と同様にやる気もなく、また間抜けすぎて、次第に愛すべき存在になっていく。本当に憎むべきは何か、壊すべきは何なのかが明確にされてゆき、劇中の犠牲者はおそらく最小限に終わり、それでいてみんなに救いのある結末を迎える。最後の決戦はまさに王道を行くものだろう。

設定が全体に緩く、舞台そのものがナンセンスであったためか、制作スタッフも実にのびのびと、こここにパロディをちりばめた楽しい作品に仕上げている。全体のバランスが良すぎて、特撮映像やキャラクターの描き分けなどの完成度の高さは言及されず、また“いかにもなカッコ良さ”が少なかったためか、視聴率も伸びず制作側の評価も低くなってしまった、悲劇的な面も持ち合わせている。

【クレジット】

監督

小林義明

坂本太郎

渡辺勝也

田崎竜太

松井昇

竹本昇

アクション監督

山岡淳二

(ジャパン・アクション・クラブ)

プロデューサー

梶淳

(テレビ朝日)

高寺成紀

(東映)

原作

八手三郎

脚本

浦沢義雄

曾田博久

荒川稔久

CG	徳森英二	
撮影	いのくままさお	
特撮監督	佛田洋	
視覚効果	映画工房	
美術	山下宏	
造型	前澤範	(レインボー造型企画)
編集	成島一城	
音楽	佐橋俊彦	
アクション	横山一敏	
	大藤直樹	
	竹内康博	
	大林勝	
	中川素州	
	田辺智恵	(ジャパン・アクション・クラブ)
	蜂須賀祐一	
	福沢博文	
	森美昭	
	伊藤真	
	倉恒由美子	
	神尾直子	(ジャパン・アクション・クラブ)
特技・操演	鈴木昶	(株)特撮研究所
	尾上克郎	(株)特撮研究所
特技・撮影	高橋政千	(株)特撮研究所
特技・美術	大植健次	(株)特撮研究所
アクション	森山貴文	
	O-B I T O H	
出演	岸祐二	陣内恭介／レッドレーサー
	増島愛浩	土門直樹／ブルーレーサー
	福田佳弘	上杉実／グリーンレーサー
	本橋由香	志乃原菜摘／イエローレーサー
	来栖あつこ	八神洋子／ピンクレーサー
	七瀬理香	ゾンネット
	寺岡龍治	天馬市太郎
	エド山口	Edo Yamaguchi 天馬総一郎
	岩崎良美	天馬良江
	濱松恵	ラジエッタ・ファンベルト (初代)
	須藤実咲	ラジエッタ・ファンベルト (2代目)
声の出演	大竹宏	ガイナモの声
	津久井教生	ゼルモダの声
	長嶺高士	グラッチの声
	まるたまり	ダップの声

小林修

大塚芳忠

小林清志

田中信夫

エグゾスの声

シグナルマンの声

V R V マスターの声

リッチハイカーの声